

主な出来事

【内政】

- 2日、選挙法改定に関する法案が採択され、国民議会議席数が150議席から165議席に増加し、15議席を新規にディアスポラに割り当てることになった。
- 27日、サル大統領は国民議会議員選挙実施日を本年7月30日とする大統領令を発令した。
- 23日、ジャロ内務・公安相は、与党、野党、独立諸派、無所属、国家選挙管理委員会(CENA)、市民社会及び同省員の各代表より編成された選挙手続き監視委員会の設立を発表した。

【外政】

- 7日、サル大統領はガーナの首都アクラを訪問し、ガーナ共和国のナナ・アクフォ＝アド新大統領の就任式に出席した。
- 13日、サル大統領はマリ首都バマコを訪問し、13日から14日にかけて開催された「第27回仏・アフリカ・サミット(Sommet Afrique-France2017)」に出席した。
- 14日、サーリーフ・リベリア大統領の要請に基づき、サル大統領はガンビア大統領就任式が予定される19日までアダマ・バロウ次期ガンビア大統領をセネガルに一時受け入れることを承諾した。
- 19日、ンジャイ・セネガル軍スポークスマンは、セネガルがガンビアへの武力介入を開始した旨発表した。
- サル大統領は30日から31日にかけてエチオピアのアディス・アベバにて開催された第28回AU首脳会合に出席した。30日、本会合においてAUC委員長選挙が行われ、セネガルのバティリー候補は3回目の投票で敗れマハマト候補(チャド外相)が選出された。

【経済】

- スイスのMIMRANグループはセネガル砂糖会社(CSS)及びLes Grands moulins de Dakar社及びLes Grands moulins d'Abidjan社をモロッコのFORAFRICグループに6,560億FCFAで売却することが決定した。
- 22日から24日にかけて、ムフタール・イスラム開発銀行副総裁がダカールを訪問した。

【内政】

2017年国民議会議員選挙

-2日、選挙人名簿改訂に関する法案が採択された。同法案では新規の選挙人名簿の登録者数が400万人に達した場合、7月の国民議会議員選挙に同名簿が利用されること等が規定された(3日 LeTemoin)。

-2日、選挙法改定に関する法案が採択された。同法案により、国民議会議員が現行の150議席から165議席に増加する。15議席はディアスポラに割り当てられているが、ジャロ内務相は国会質疑にて、議席増加の理由として、人口増加、ディアスポラの貢献が国家予算の1/3に相当するものであること等を挙げた(3日 Le Temoin)。

-27日、サル大統領は国民議会議員選挙実施日を本年7月30日とする大統領令を発令した(28日及び

29日 Le Soleil)。

－23日、ジャロ内務・公安相は、与党、野党、独立諸派、無所属、国家選挙管理委員会(CENA)、市民社会及び同省員の各代表より編成された選挙手続き監視委員会の設立を発表した。本発表に対して、野党及び無所属は独立諸派の参加に異議を唱え、本委員会に参加しない旨発表した(23日 Le Soleil 他)。

ハブレ前チャド大統領裁判

－9日、アフリカ特別裁判部(EAC)(※当館注:セネガルに設置されている)は人道に対する罪で昨年5月30日に終身刑を受けたハブレ前チャド大統領の弁護団による控訴を取り下げた。また、最終判決は4月27日に延期される旨決定した(13日 Le Soleil)。

社会党(PS)幹部会暴力事件

－9日、昨年3月の社会党(PS)幹部会に乱入した党員が起こした暴力事件において、殺人未遂及び集団犯罪の容疑で、バンバ・ファル・メディナ市長他8名が拘留された(10日 APS)。

－14日、ハリファ・サル・ダカール市長は記者会見を開き、バンバ・ファル・メディナ市長等の拘留は政治的人質であり、早期釈放のため徹底的に抗戦する旨発表した(14日及び15日 Walf Quotidien)。

【外政】

セネガル・ガーナ関係

－7日、サル大統領はガーナの首都アクラを訪問し、ガーナ共和国のナナ・アクフォ＝アド新大統領の就任式に出席した。同就任式後のインタビューを受けたサル大統領は、ガーナは平和裡に政権交代が行われており、ガンビアはガーナを見習うべきであると述べた(7日及び8日 Walf Quotidien)。

国連安保理

－9日から11日にかけて、ンジャイ外相はニューヨークを訪問し、10日、「紛争予防と平和の持続」をテーマにスウェーデンが議長を務めた国連安保理公開討論に出席した(10日 APS)。

第27回仏・アフリカ・サミット

－13日、サル大統領はマリの首都バマコを訪問し、13日から14日にかけて開催された「第27回仏・アフリカ・サミット(Sommet Afrique-France2017)」に出席した。本サミットにはオランド仏大統領の他約30名のアフリカ首脳が出席した(16日 Le Soleil 他)。

セネガル・ガンビア関係

－9日、サル大統領はナイジェリアの首都アブジャで開催されたガンビア調停に関するECOWAS臨時首脳会議に出席した。本訪問にはンジャイ外相及びゲイ統合参謀総長(CEMGA)が同行した(10日 APS)。

－13日、サル大統領は「第27回仏・アフリカ・サミット」のマージンにおいて行われたアダマ・バロウ・ガンビア次

期大統領と ECOWAS 各国首脳との協議に出席した(14 日 RFI)(往電第 61 号)。

－14 日、サーリーフ・リベリア大統領の要請に基づき、サル大統領はガンビア大統領就任式が予定される 19 日までアダマ・バロウ氏をセネガルに一時受け入れることを承諾した(15 日 APS)。

－18 日、ジャメ大統領との調停のためガンビア入りしていたアジズ・モーリタニア大統領は、同日夜半ガンビアを発ち、サル大統領と会談を行うためセネガルを訪れた。空港において、アジズ大統領は、サル大統領及びバロウ氏と会談を行った(19 日 ロイター通信)(往電第 96 号)。

－19 日、在セネガル・ガンビア大使館においてアダマ・バロウ大統領宣誓式が開催された(19 日 BBC 他)(往電第 101 号)。

－19 日、セネガル政府は、ガンビア難民及びガンビア在住のセネガル人に対する国家緊急対策計画(ORSEC 計画)を策定した(18 日 Le Temoin)。

－19 日、ンジャイ・セネガル軍スポークスマンは、セネガルがガンビアへの武力介入を開始した旨発表した(19 日 ロイター通信)(往電第 101 号)。

パレスチナ問題

－15 日にパリで開催された中東和平会議に出席したンジャイ外相は、パレスチナ問題について、アラブ諸国をはじめ、ケリー米務長官、エジプト、ロシアの仲介、中東和平カルテットのロードマップ、マドリッド会議、オスロ合意を通じて 50 年の間数多くの努力がなされてきており、イスラエル及びパレスチナの両国に必要なのは長期的に世界の他地域の不安定化を引き起している紛争の決定的解決及び持続的平和であると述べた(18 日 Le Soleil)。

セネガル・中国関係

－16 日、ダカールにおいて、丁偉(てい・い)中国文化部副部長及びンジャイ文化・通信大臣が 2017 年から 2019 年までの二国間文化協力協定に署名をした。本協定により、中国文化センターの建設及び文化・通信省への総額 4,000 万 FCFA(40 millions de FCFA)の事務用機器の供与が行われる予定(17 日 Sud Quotidien (往電第 76 号))。

第 28 回 AU 総会

－28 日、アフリカン・ピア・レビュー・メカニズム(APRM)の進捗報告会合に出席したサル大統領は、セネガルのガバナンスの改善に対する同会合のアドバイス及び行動計画の貢献への確信を述べた他、セネガルの経済パフォーマンスを高く評価した(30 日 Le Soleil)。

－28 日、サル大統領はゲレ・ジブチ大統領と面会し、両大統領はセネガルの教師のジブチへの派遣、セネガルの大学のジブチ留学生受け入れを始めとする両国の友好な関係について触れたあと、ゲレ同大統領

はセネガル・ジブチ間をつなぐ「緑の壁」プロジェクト(※AUの推進する砂漠化防止のための植林プロジェクト)及び鉄道計画の実現に積極的な姿勢を示した(30日 Le Soleil)。

ー29日、サル大統領はモハメド6世モロッコ国王の主催するレセプションに参加した(30日 大統領府FB)。

ー30日、サル大統領は、モロッコのAU再加盟の承認は一時的な政治的意見の相違ではなく、アフリカ及びアフリカ人に係る問題であるため、本承認について議論がなされるべきではないと述べた(30日 Le Soleil)。

ー30日、AU委員長選挙が行われ、セネガルのバティリー候補は3回目の投票で敗れ、マハマト候補(チャド外相)が選出された(31日 Le Soleil 他)。

【経済】

ー17日、英ケアン・エネルギー社は今月末に第3弾となるSNE油田におけるSNE-5及び6の掘削プログラムを開始する旨発表した。本プログラムの生産テストによりSNE油田の油槽の上層部の接続性に関する詳細な情報が明らかとなる(19日 Le Soleil)。

ー18日、ミレニウム・チャレンジ・アカウント(MCA)のセネガル第二次計画の策定及び調整ユニットは、セネガル経済発展の妨げとなっている最大の障害としてエネルギー価格の値上がり、電気の供給不足及び民間セクターの環境不全を指摘した(19日 Le Soleil)。

ースイスのMIMRANグループはセネガル砂糖会社(CSS)及びLes Grands moulins de Dakar社及びLes Grands moulins d'Abidjan社をモロッコのFORAFRICグループに6,560億FCFAで売却することが決定した(18日 Le Temoin)。

セネガル・モーリタニア間ガス事業

ー米コスモス・エネルギー社は懐柔策として国際NGO「Le Partenariat」と共同でサンレイ州のバルバリ地峡の環境保護を目的としたCSR事業第一弾(5,800万FCFA, 12か月)を開始する(20～22日 Le Temoin)。

ーファル・サンレイ州副知事は、政府はサンレイ州の漁業の重要性を十分に考慮する必要がある、住民の利益のためにあらゆる措置を講じる予定であると述べた(20～22日 Le Temoin)。

イスラム開発銀行副総裁のセネガル訪問

ー23日、ダカールにおいて、ムフタル・イスラム開発銀行副総裁及びバ経済財政計画大臣は「セネガル・イスラミック・マイクロファイナンス開発計画」、「マラリア対策支援計画」及び「ワクフ(※WAQF, イスラムの寄進財産制度)計画のコミュニケーションプランの技術支援」(総額51億FCFA)に署名を行った(24日 Le Soleil)。

ー23日、ダカールにおいて、イスラム開発銀行及び西アフリカ諸国中央銀行(BCEAO)はサハラ以南アフリカ地

域におけるイスラム債(スクーク)発行に関する法律制定に向けた非公式の協議を行った(24日 Walf Quotidien)。

—23日、ムフタール・イスラム開発銀行副総裁及び実施団体であるAGEROUTE社は「ダカール市街地幹線道路整備事業」(VDNの第二区画(Cices・ゲジャワイ間))を訪問し、AGEROUTE社は本年12月に完成する旨発表した。本事業は2015年に開始し、イスラム開発銀行が3,850億FCFAの支援を行っている(24日 Le Quoridien)。

「サヘル地域牧畜支援プロジェクト(PRAPS)」

—25日、世銀は6か年計画となるサヘル8か国を対象とした「サヘル地域牧畜支援プロジェクト(PRAPS)」(170億FCFA)を発表した(26日 APS)。(了)